

都内中小企業の事業資金に関する調査

(平成30年11月調査)

《 概要 》

- 主な取引金融機関は、「都市銀行」が56.0%で最も高く、次いで「信用金庫」が31.0%となっており、この2つで9割程度を占める。
- 主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）で見ると37.0となった。「緩やか」が「厳しい」を上回る状況が続いているが、前回と比べてDI値は2.1ポイント低下した。
- 主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、「変化なし」が75.0%と7割以上を占めて最も高い。
- 最近の借入金利は、「1%台」が42.5%と最も高く、次いで「1%未満」が24.9%、「2%台」が24.5%となった。「1%未満」、「1%台」、「2%台」をあわせると9割を超えている。
- 今後3か月間の資金需要をDI値（「増加する」－「減少する」）で見ると、19.1と前回と比べて1.8ポイント上昇した。
- 金融機関からの借入金総額の状態は、前年同時期と比べて「減少した」が41.6%と最も高く、次いで「変化なし」が41.4%となった。今後1年以内に現在額を上回ることがあるかについては、「ない」が54.2%となった。

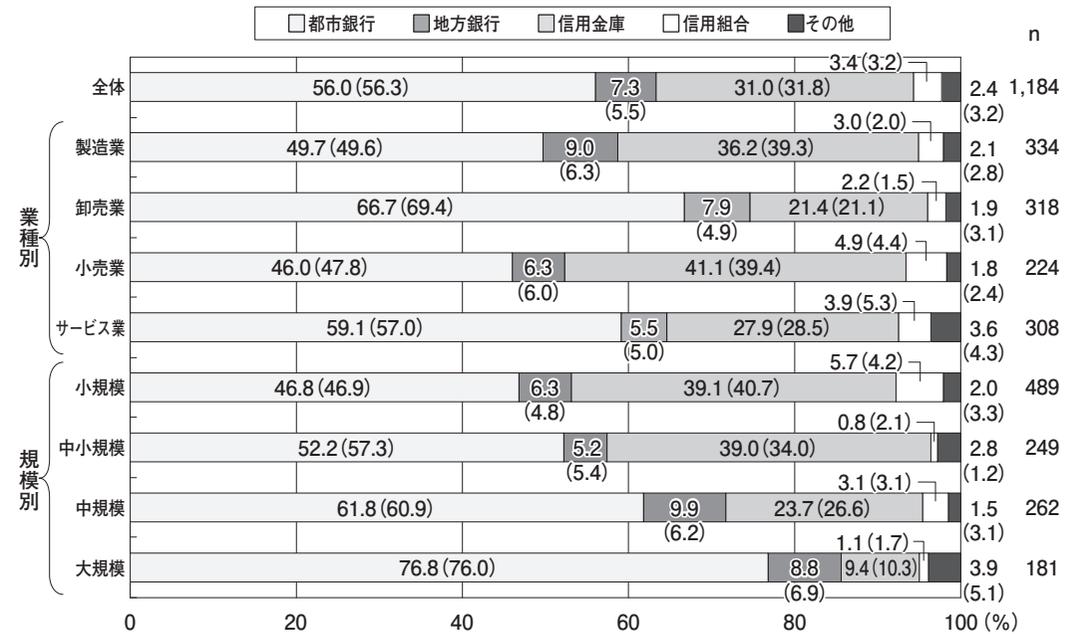
1. 主な取引金融機関

主な取引金融機関は、全体では「都市銀行」が56.0%（前回56.3%）で最も高く、次いで「信用金庫」が31.0%（同31.8%）となっており、この2つで9割程度を占める。このほか、「地方銀行」が7.3%（同5.5%）、「信用組合」が3.4%（同3.2%）となった。

業種別にみると、全業種で「都市銀行」が最も高く、特に卸売業では66.7%となった。一方、小売業では、第2位の「信用金庫」が4割程度を占め、「都市銀行」との差は小さい。

規模別にみると、小規模では「都市銀行」が46.8%、「信用金庫」が39.1%となっている。規模が大きくなるほど「都市銀行」が高く、「信用金庫」が低くなっており、大規模では「都市銀行」が76.8%となった。

図表1 主な取引金融機関



注) 無回答を除き集計。規模不明を除く。()内は前回値(平成30年5月調査)。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

2. 借入や返済に対する姿勢

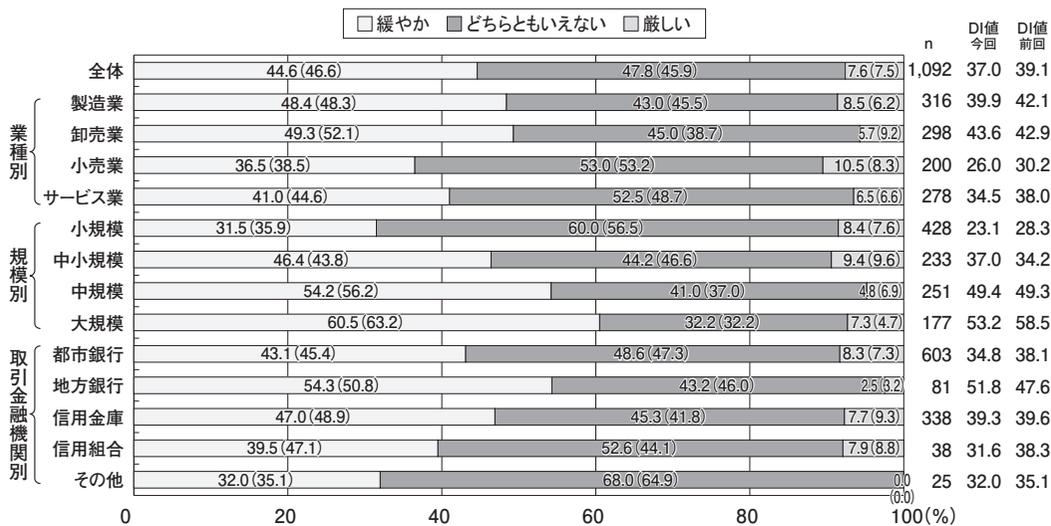
主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）で見ると、全体では37.0（前回39.1）となった。「緩やか」が「厳しい」を上回る状況が続いているが、前回と比べてDI値は2.1ポイント低下した。

業種別にみると、卸売業43.6（同42.9）のみ0.7ポイントとわずかに上昇した。一方、製造業39.9（同42.1）は2.2ポイント、小売業26.0（同30.2）は4.2ポイント、サービス業34.5（同38.0）は3.5ポイントといずれも低下した。

規模別にみると、中小規模37.0（同34.2）は2.8ポイント上昇した。一方、小規模23.1（同28.3）は5.2ポイント、大規模53.2（同58.5）は5.3ポイントとともに低下した。中規模49.4（同49.3）はほぼ横ばいで推移した。

取引金融機関別にみると、地方銀行を除く取引金融機関でDI値が低下した。信用組合31.6（同38.3）は6.7ポイント、都市銀行34.8（同38.1）は3.3ポイント、信用金庫39.3（同39.6）は0.3ポイントといずれも低下した。一方、地方銀行51.8（同47.6）は4.2ポイント上昇した。

図表2 取引金融機関の借入や返済に対する姿勢



注) 無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成30年5月調査)。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

3. 主な取引金融機関からの借入金利

(1) 金利傾向

主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、全体では「変化なし」が75.0% (前回72.6%) と7割以上を占めて最も高い。また、「低下」が8.0% (同11.3%) で、「上昇」の5.9% (同4.9%) を上回っている。

図表3 金利傾向



注) 無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成30年5月調査)。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

(2) 金利水準

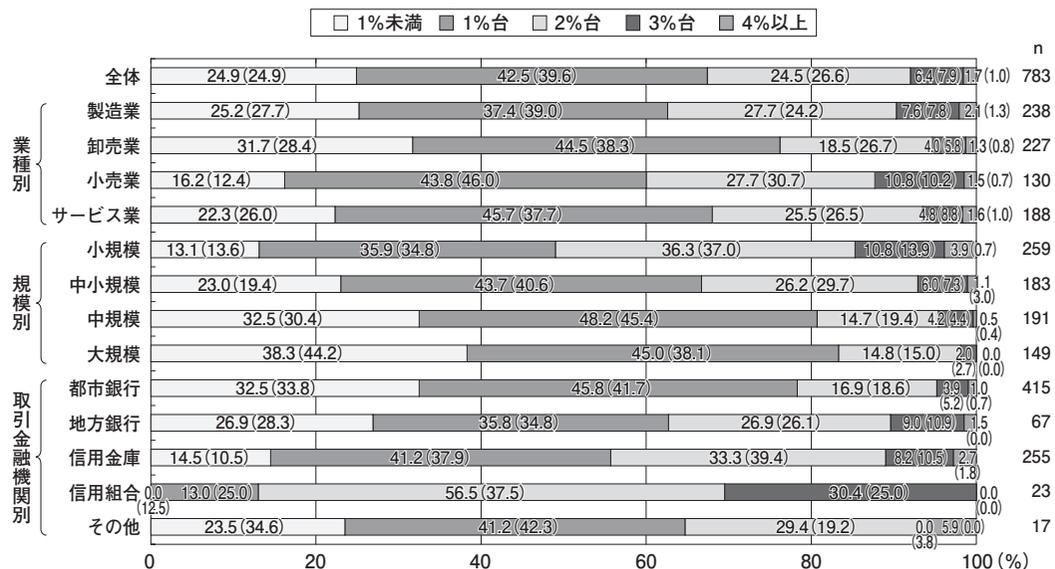
最近の借入金利は「1%台」が42.5% (前回39.6%) と最も高く、次いで「1%未満」が24.9% (同24.9%)、「2%台」が24.5% (同26.6%) となった。「1%未満」、「1%台」、「2%台」をあわせると9割を超えている。

業種別にみると、小売業を除く全ての業種で「1%未満」が2割を超えている。

規模別にみると、規模が大きくなるほど「1%未満」が増加しており、大規模では4割程度となっている。

取引金融機関別にみると、都市銀行では「1%台」が45.8%で最も高く、「1%未満」とあわせると8割程度となっている。

図表4 金利水準



注) 無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成30年5月調査)。借入金利は3年超5年以内、保証協会の保証付以外。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

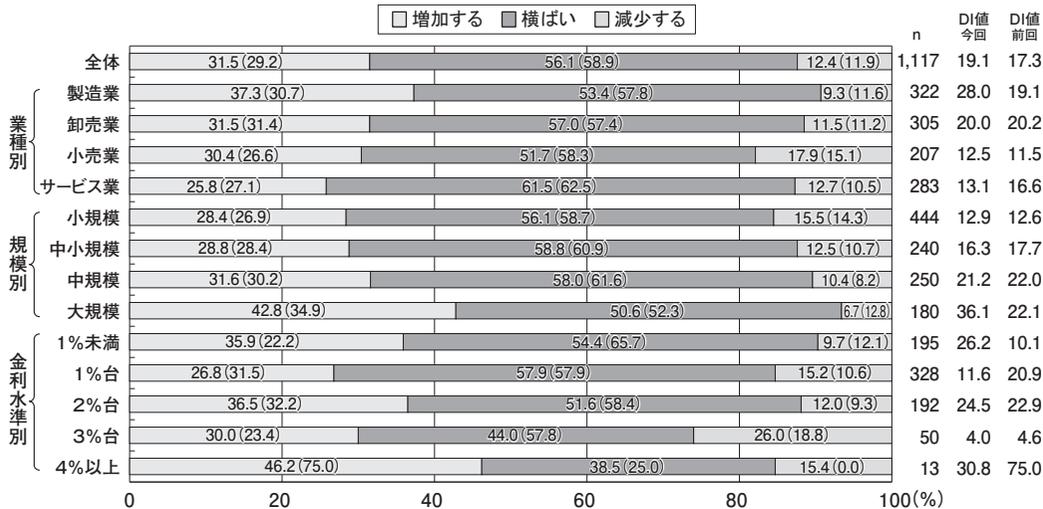
4. 今後3か月間の資金需要

今後3か月間の資金需要をDI値(「増加する」-「減少する」)でみると、全体では19.1(前回17.3)と前回と比べて1.8ポイント上昇した。

業種別にみると、製造業28.0(同19.1)は8.9ポイント、小売業12.5(同11.5)は1.0ポイント上昇した。

規模別にみると、大規模36.1(同22.1)が14.0ポイントと大幅に上昇した。

図表5 資金需要（今後3か月間）

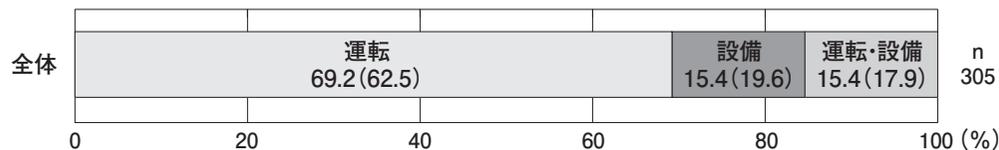


注) 無回答を除き集計。規模・金利水準不明を除く。()内は前回値(平成30年5月調査)。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

(1) 資金使途

資金需要が増加すると回答した企業の資金使途をみると、「運転」が69.2%（前回62.5%）と最も高く、次いで「設備」15.4%（同19.6%）と「運転・設備」15.4%（同17.9%）となった。前回と比べて「運転」が6.7ポイント増加し、「設備」が4.2ポイント、「運転・設備」が2.5ポイントとともに減少した。

図表6 資金使途

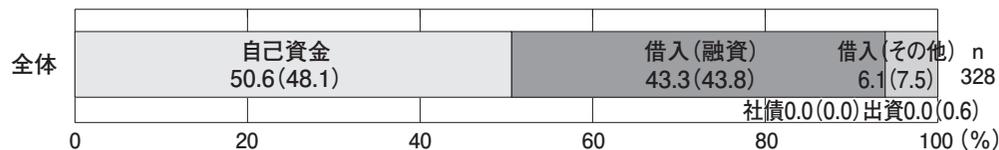


注) 資金需要が増加する企業につき、無回答を除き集計。()内は前回値(平成30年5月調査)。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

(2) 調達手段

資金需要が増加すると回答した企業の調達手段をみると、「自己資金」が50.6%（前回48.1%）と最も高く、次いで「借入（融資）」が43.3%（同43.8%）となった。前回と比べて「自己資金」が2.5ポイント増加し、「借入（融資）」が0.5ポイント減少した。

図表7 調達手段



注) 資金需要が増加する企業につき、無回答を除き集計。()内は前回値(平成30年5月調査)。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

5. 金融機関からの借入金総額の状況

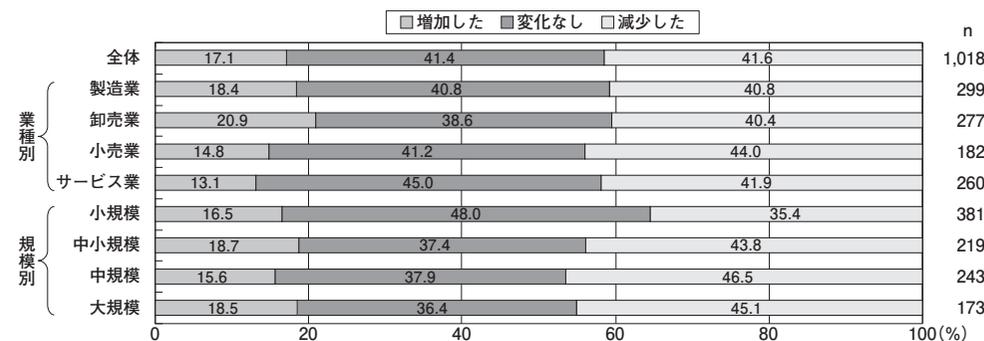
(1) 借入金総額（前年同時期比）

前年同時期と比べた現在の金融機関からの借入金総額の状況は、全体では「減少した」が41.6%と最も高く、次いで「変化なし」が41.4%となった。一方、借入金総額が「増加した」は17.1%となった。

業種別にみると、「増加した」は卸売業で20.9%、製造業で18.4%とやや高くなっている。

規模別にみると、小規模を除き「減少した」が4割を超えている。

図表8 金融機関からの借入金総額（前年同時期比）



注) 無回答を除き集計。規模不明を除く。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

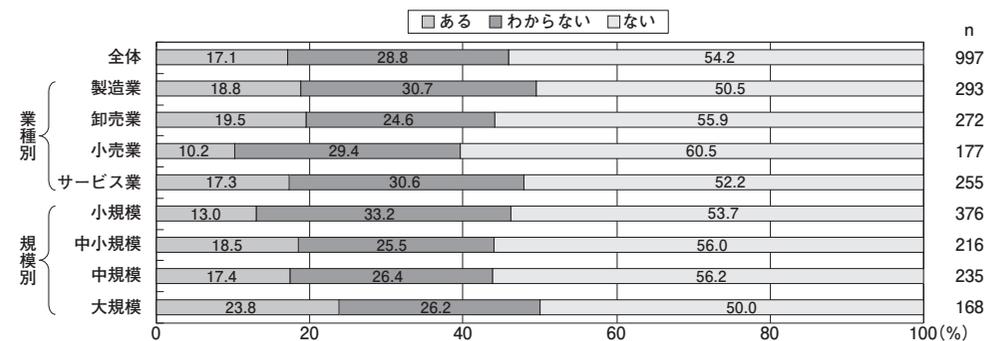
(2) 借入金総額の増加見込み（今後1年内）

今後1年内に金融機関からの借入金総額が現在額を上回ることがあるかについては、「ない」が54.2%となった。一方、「ある」は17.1%となっている。

業種別にみると、全業種で「ない」が過半数を超えた。

規模別にみると、大規模では「ある」が23.8%と他の規模より高くなっている。

図表9 借入金総額の増加見込み（今後1年内）



注) 無回答を除き集計。規模不明を除く。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。